

<b>タイトル</b>	平成30年度 一般入試 (前期日程) 教育学部 国語教育専攻 国語小論文
<b>評価のポイント</b>	<p>「国語小論文」では、日本語のしくみや日本語を用いた文化に関する総合的な力を問い、課題の理解力、論理的な思考力、発想の豊かさ、文章表現力などを評価した。評価に当たっては、以下のような点を特に重視した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題文の内容をよく理解し、設問意図に沿った解答ができているか。</li> <li>・ 問題のテーマに関連した基礎的な知識をもっているか。</li> <li>・ 解答の記述に当たって正しい論理の運びができているか。</li> <li>・ 解答の論旨が明快であるか。</li> <li>・ 適切な表現ができているか。具体的には、誤字・脱字はないか。文章に乱れはないか。</li> <li>・ 制限字数を満たしているか。極端に短い答案になっていないか。</li> </ul> <p>加えて、それぞれの間では、次の点を満たす必要がある。</p> <p>① 本文を的確に要約し、「時差による線引き」について、自分の意見を根拠に基づいて明確に述べられているか。根拠や挙げられている具体例は解答の論旨に沿っているか。</p> <p>② 「本を読むことも世界を広げること」について、マンガの中に出てくる子どもたちに理解させることを念頭に、具体的に述べられているか。</p> <p>出典 山田敏弘『その一言が余計です——日本語の「正しさ」を問う——』筑摩書房 2013</p> <p>いしかわじゅん『桜田です!』565回 毎日新聞 2016年9月30日</p>